

宮崎発夢未来～美しい郷土を子どもたちに

みやざき中央新聞

The Miyazaki Central Journal

10月22日(月)

2012年(平成24年)

2481号

発行 (有)宮崎中央新聞社

編集部 〒880-0911 宮崎県宮崎市田吉6207-3

Tel(0985)53-2600 Fax(0985)53-5800

毎週月曜日・月4回発行 1ヶ月1,050円(うち消費税50円・送料込み)

郵便振込口座 02060-3-7621

http://miya-chu.jp e-mail:info@miya-chu.jp

岩崎念唯ねんぎという、50代半ばの浄土宗のお坊さんがいる。

何が原因か分からないが、十数年前に奥さんから三行半みぎらはんを突きつけられ離婚。やむなく住み慣れた町を離れ、宮崎市に移り住んだ。元々奥さんの実家がお寺で、結婚後に僧侶への道を志し、得度とくどしてから高校教師を辞めて副住職ふしやくになった。

離婚後はお務めするお寺がなくなっただので、「フーテンの寅さん」状態になった。とりあえず宮崎市に一軒家を借り、布教所にした。

しばらく何をしているのか分からない時期があった。我々は葛飾・柴又の団子屋「とらや」の住人みたいに、「石岩崎さん、今頃どうしてるんだらうね?」なんて話していた。

数年後、彼はみんなの前に姿を現した。知り合いのついでに土地を借りることができ、そこにお寺をつくったというのだ。広大な小高い山に作られた宮崎霊園のつべんに、それは建っていた。

お寺の場所としては、これ以上のところはないだろう。名を「自然寺」と付けた。しかし、外観はともにお寺には見えなかつた。当時、オウム真理教事件がまだ記憶に新しかった。あの施設と似ていた。みんな岩崎さんのお寺を「サティアン」と呼んだ(笑)

10年前に行われた開山式の日には土砂降りだった。その後、たくさんの人にお寺に来てもらおうと、岩崎和尚はいろんな催し物を行うのだが、不思議といつも

雨に降られた。「雨降って地固まる」「雨降って地固まる」、念仏のようにいつも笑顔で口にしていた。建物は大きければ大きいほど基礎工事が大事なように、何事も新しいことを始めるときは初期の地固めが重要なのだ。

「雨に降られて地は固まる」、そんな10年の歳月が流れた。先週さわやかな秋空の下、開山10周年の記念行事が行われた。2000人を超える人たちが集まった。



編集長 水谷 もりひと 謹

好きという感情を引き起こすもの

京都にある総本山知恩院をはじめ、全国各地あちこちの由緒あるお寺の住職たちもたくさん祝福に訪れた。

その中のお一人のあいさつの中にも「サティアン」という言葉が出てきた。僧侶仲間の間でもそう呼ばれていたことを知った(笑)

その住職はこうも言った。「今、ほとんどの僧侶が、先人の建立したお寺を継いでいるが、岩崎和尚はよそからやってきて、何にもないところに寺を建てた。かつて法然上人の時代の先駆者たちがやったことで、こんなに尊いことはない」
会食の場で、一人の檀家さんらしき人

がこんなことを言った。

「うちは浄土真宗なんですけど、岩崎和尚が好きだからここに來てるの」。そして他の人たちも口々に言った。「うちも真宗なんですよ。でも岩崎さんが好きで...」「うちもそうよ。もし岩崎和尚が真面目で、人格者で、非の打ちどころのない立派な人だったら來てないうと思う。欠点だらけだから來てるの」(笑)

なるほど、これなんだなあと考えた。立派な思想や哲学、大きな理想や素晴らしい説法が人を惹きつけるのではなく、やっぱりその人の人間性、すなわち、人としての魅力、それが出会った人から「好き」という感情を引き出せるのだろう。

この世の人はとかく、お金や地位や権力や勢いのある人のところに集まってくるものである。だがそれは「好き」という感情ではない。そういう社会的装飾品がなくても、あの「フーテンの寅さん」のように、人間味溢れる魅力があると、不思議とその人が好きになるものである。

フーテンの寅さんも、岩崎和尚も、報酬を顧みず困っている人の為に一生懸命動く。かと思いきや自分が困っていたら相手の迷惑も顧みず援助を求める。そんな人って憎めないというか、親近感が湧くというか、いつの間にか「友だち」になってしまう。

離婚した当初は、かなり葛藤したそうだが、あの出来事は次のステージの扉を開いた。その後、彼はこう言っている。「私はマルチです」